

御中

【署名協力のお願い】

4月から流山市の「指定ごみ袋」しか回収しないという方法が導入されました。市民への周知徹底が不十分、疑問や反対の意見が多い中、一方的に導入されたのです。

3月30日、私たちは、会として、市民のみなさんの声や、要望を届けるために市に要望書を提出しました。大島環境部長、金子クリーンセンター所長たちに対し、参加した6名が、質問や改善の意見などを述べ、その場でも答えていただきましたが、道理ある回答は得られず、文書での回答を待っているところです。導入後、地域では混乱が起きています。

一部の者が騒いでいるのではなく、大勢の市民が現状に対して、困り、改善してほしいと思っている実態を市に知らせ、1日も早く対応してもらうために、署名に取り組むことにしました。つきましては、5月15日をめどに、第1次分を集約したいと思います。多くの方に声をかけ、署名を広げてくださいますようお願いいたします。

なお、署名用紙下部の賛同団体のところに、貴団体名、および連絡先をご記入くださいますようお願いいたします。

ごみ袋と環境問題を考える会
代表 安藤 次子

連絡先 大石 (080-5173-7074) 鹿島 (090-6191-8562)

流山市長 井崎 義治 様

「ごみ袋と環境問題を考える会」 代表 安藤 次子

ルール通り分別しているごみ袋の回収を求める請願

【請願趣旨】

今年4月からの「指定ごみ袋」の導入にともない、家庭のごみについて指定ごみ袋以外は回収しないという制度になりました。各地のごみ集積所にはオレンジカードが添付されたごみ袋が残されるようになり、地域では混乱が起きています。

これは、「よくわからない、一方的だ」「今までもきちんと分別している」など、1年以上にわたって市民から寄せられた疑問や反対の意見を軽視し、導入を強行したことによります。

そもそも、市民の98%はごみ出しのルールを守っています。その結果、市民一人当たりが1日に出している家庭ごみは、18年間で2割も減り、全国・千葉県の平均以下です。

大事なことは、袋の外見ではなく、しっかり減量・分別・資源化を継続し、わずか2%であってもルール違反のごみを減らすよう、行政と市民・地域が粘り強く協働することです。

今まで、地域が協働してスムーズに対応できていたことができなくなっています。さらに、袋の値段が高い、種類が少ない、今まで使っていた袋をごみ袋で使えずプラごみが増えた、道路などの植栽のごみを出すのも個人の負担、袋の表示と実際に入る容量が異なる（不当表示）、指定ごみ袋のほとんどが輸入品で、大量のCO₂を新たに排出させている等々の問題もあります。

以上の趣旨から、私たちは以下の項目について請願します。

【請願項目】

- 1、ルール通り分別しているごみ袋（透明または半透明）も、指定日に回収すること。
- 2、公衆衛生や道路等の管理上、自治会やごみ集積所の管理当番等から、ごみ回収の依頼があった場合は、必ず速やかに回収すること。

氏 名	住 所

この署名は流山市に提出すること以外には使用しません。

賛同団体（）